

## 後期の連携開設科目試行「域学共創ワークショップ/DX概論」がスタート

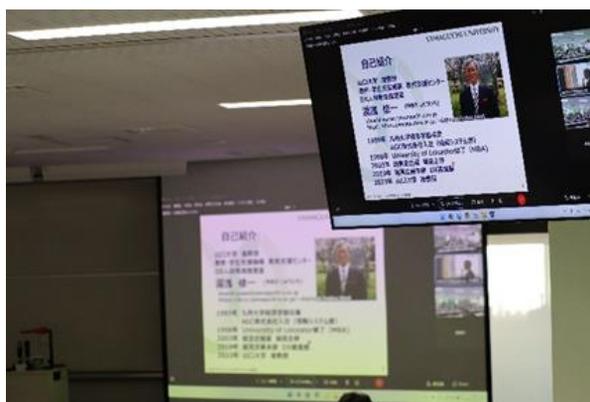
前期に試行した連携開設科目「地域学/国際文化実践論」に続いて、後期に山口大学から提供を受ける「DX概論」が「域学共創ワークショップ」（国際文化学部）の中でスタートしました。

域学共創ワークショップでは、15回の授業のうち、4回を山口大学から提供を受ける予定です。10月12日の第2回目の授業では、山口大学DX人材育成推進室の湯浅修一准教授が「DXと社会変化」と題した講義をオンラインで行いました。湯浅先生はご自身が民間企業の経営企画部門で働いていたことを紹介した上で、現在民間企業が取り組んでいるDX（デジタルトランスフォーメーション）化の実例を示し、そこに至った社会情勢の変化や、社会が求める製品やサービス、さらにはDX化によって生じる変化などを具体的に説明しました。

授業の履修者は今年度入学した国際文化学科の1年生です。今回の授業で、実際に企業が取り組んでいるDX化の概要を少し理解できたのではないのでしょうか。

山口大学から提供を受ける次回の授業は12月14日、21日、1月18日です。「事例に学ぶDX」として、県内の3事業所からそれぞれが取り組むDXについて講義をしていただく予定です。

SPARC教育プログラムが本格的に実施される2025年度以降は、このDX概論を通してDXの背景、概念、重要性を理解するとともに、課題解決においてデータやデジタル技術、各種ツールの活用などをイメージできるよう学んでいくこととなります。



第2回目の「域学共創ワークショップ」(2023年10月12日)において山口大学から配信を受ける「DX概論」を実施

## コンソーシアムのタスクフォースチーム紹介 ～高大接続推進チーム

一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアムでは、今年度、連携教育プログラム委員会内に「高大接続推進チーム」を立ち上げました。ジュニアリサーチセッション(中高生研究発表会)の実施、入試における探究活動の評価、高校生の先取り履修について検討を行います。

これまで山口大学理学部が実施してきたジュニアリサーチセッションをコンソーシアムが引き継ぐ形で、2024年3月20日(金・祝)にジュニアリサーチセッションを開催することになりました。

本セッションは、全国の高等学校や中学校に所属する生徒が、自然科学と人文社会科学に関連する探究活動の成果を発表するコンテストです。中学生、高校生の個人又はグループが、各学校の正課や課外活動等で取り組んでいる探究(研究)活動の成果を発表し、参加生徒の交流を深め、探究活動への興味推進を図ることを目的としています。

昨年度は、山口県内から6校、福岡県1校、島根県2校、兵庫県1校の計10の中学・高校から79組のエントリーがなされ、予備審査を突破した総合発表7テーマ、一般発表55テーマのもとで行うコンテストに約200名の方が参加しました。本学からは、審査員としてSPARC推進室の特任教員(講師)の東 宮史先生が参加しました。

(裏面に続く)

今年度のジュニアリサーチセッションは以下の予定で開催されます。

日時：令和6年3月20日（水・祝）10:00～16:00  
 場所：山口大学吉田キャンパス（山口市吉田1667-1）  
 対象：中学生、高校生の個人又はグループ  
 主催：一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム  
 （山口大学、山口県立大学、山口学芸大学）  
 後援：山口県教育委員会  
 詳細：<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cphe/junior2023.html>

一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアムのウェブサイトより



## 地域活性化人材育成事業～SPARC～委員会現地視察が行われました

地域活性化人材育成事業～SPARC～委員会（事務局：日本学術振興会）が、SPARC採択事業を実施する大学に赴き、関係者との質疑応答等を通じて事業の進捗状況を把握するフォローアップ現地視察が11月21日に実施されました。委員は4名です。午前中が事業計画責任者等からの説明・質疑応答、学生（山口大学3名、本学3名）との意見交換、午後は教育現場・施設の見学、講評・自由討論の予定で行われました。

委員4名への説明では、山口大学の松野副学長が全般的な説明を行い、情報社会学科(仮称)の新設を含めた国際文化学部の再編については本学の岩野副学長が、一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアムと「大学リーグやまぐち」との関連についての質問には吉村副学長が説明を行いました。

また、委員会から要望のあった「採択後、学びの主体である学生（あるいは学生組織）の事業への参画に何か変化があったかどうか、説明いただきたい。」に対しては、今年度前期に本学から提供した連携開設科目（国際文化実践論/地域学）を受講した学生へのアンケート結果から読み取れる意識変化について説明しました。

最後の講評では、委員から「全体の制度設計は良くできている。方向性については問題ない。期待度は高いが、細かいところは検討していただきたい。」「3大学間のコンソーシアムが大事。頻繁に会議を開催しているので安心感がある。」といった発言がありました。

これに加えて、全体への周知や大学リーグやまぐちとの関係、教職員間での共通認識のさらなる共有などの今後の検討課題の発言もありました。

次年度は「データ科学と社会Ⅰ(1回分)」、「データ科学と社会Ⅱ」が3学部5学科の一年生全員に提供されます。

現地視察における要望事項：令和5年度に試行実践している連携開設科目である「国際文化実践論/地域学(開講時期:前期)」、「DX概論(開講時期:後期)」について、実施状況をご説明いただきたい。

連携開設科目の実施状況について

「国際文化実践論/地域学(開講時期:前期)」山口県立大学→山口大学へ  
 (70名) (23名)

山口県立大学側教員:岩野 雅子、藏田 典子、井竿 富雄、進藤 優子、阿部 真育、芹澤 隆道、末本 哲雄、木下 瞳

山口大学側に派遣した教員:東 富史、山口大学TA

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1回:オリエンテーション         | 9回:山口県政策企画課     |
| 2回:フィールドワークとは        | 10回:山口市総合企画部    |
| 3回:社会調査の手法           | 11回:西京銀行        |
| 4回:量的調査と質的調査         | 12回:CGS3-ホレーゾン  |
| 5回:事前の文献調査           | 13回・14回:グループワーク |
| 6回:データ分析の観点から地域課題を分析 | 15回:分科会で発表      |
| 7回:グローバルな視点とローカルな視点  |                 |
| 8回:グループワーク(データを調べる)  |                 |

中間授業評価と最終授業評価を実施し、連携教育プログラム委員会に報告

### 編集後記

事業採択2年目に行われるフォローアップ現地視察が実施されました。当日は朝の実施状況説明から午後の講評まで同席し、委員から評価する旨の発言があった時には安どしました。また、委員4名と学生との意見交換には山口大学と本学の学生が出席しました（本学から3名）。3名全員が連携開設科目の「国際文化実践論」と共同開設科目の「PBL」を受講しており、当事業を肌で感じ取った経験を率直に話してくれたものと思います。委員との意見交換が終わったあと、意気投合した山口大学の学生とずっと立ち話をしている本学の学生たちの姿が印象的でした。この事業の目的の一つである学生間の交流につながった1日だったと実感しています。